

土砂災害など自然災害への対応は重要です！

苦楽園や柏堂、剣谷、鷲林寺など六甲山の麓に位置する街は、大きな地震や集中豪雨による土砂災害・土石流に対する警戒が最も必要な地域です。国・県はこうした地域において自然災害から市民の大切な住居や財産を守るために、国や県の事業によって砂防堰堤（山の土や砂が水とまじって流れ出す土石流を防ぐための施設）整備が進められています。その一環として苦楽園中学校の北側で実施された剣谷第四堰堤の工事が終了しました。

しかしながら砂防堰堤など防災整備はあくまで住居や財産を守ることを前提としており、災害の発生を完全に止めるものではありません。その為できるだけ余裕をもって情報を取得し、**早めに避難を行うことが最も大切**です。

今後は土砂災害や土石流が懸念される地域で

自力による避難ができない高齢者や障害者の方々の把握や避難方法、情報の伝達方法など様々な課題の検討をすすめることや、砂防堰堤の見学等の取り組みによって、こども達の防災意識を向上させることが重要です。今後も地域の防災問題に積極的に取り組んで参ります。



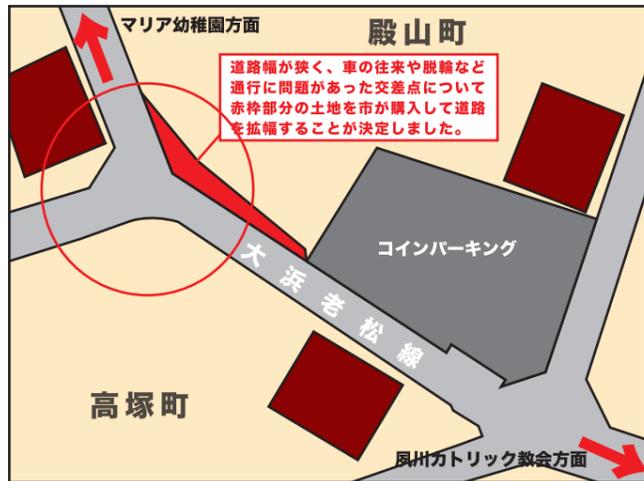
新たに完成した剣谷第四堰堤

雲井橋通りの道路が一部拡幅されます！

雲井町と高塚町の間を走る道路、通称雲井橋通り（大浜老松線）の中程にある交差点では、幅がとても狭いことから、車が側溝に脱輪するなどの事故が起きています。そこで市は、問題となっている道路に隣接する土地の一部（図面赤枠部分）を取得し、**道路幅を拡幅する工事**を行います。今年の10月末までには完成予定です。

道幅が広がることで、今までよりも車の往来がしやすくなり脱輪をする車も減ることが期待できます。一方でこの道路には夙川小学校の通学路が交差しており、午前7時30分から8時の時間帯には多くの児童生徒がこの道を横断します。そのため通学路の見守りを行っている保護者の方からは、**雲井橋通りを通行する一部の車がスピードをだして危ない**という声が上がっています。今後

はこうした車に対して速度を出させないよう、**啓発看板の設置や広報による周知を徹底するなど必要な対策**を進めて参ります。



はまぐちコラム

にしのみや歴史散歩③「まもなく生誕100周年を迎える甲陽園を振り返る」

大正7年5月7日に甲陽土地組合（後の甲陽土地株式会社）が発足し、甲陽園の名が付く町は全てこの開発によって誕生しました。目神山町に別荘、御手洗川より北に小学校・中学校、西山町に高等学校・女子小学校、新甲陽町には市場を建設し、大池周辺は遊園地としその他を住宅地に設定していました。駅の近くでは童話歌劇、童話舞踊劇、新史歌劇を公演していた少女歌舞劇や活動写真（無声映画）を放映していた施設が存在していたり、長さ約50メートルの巨大乗り台や定員50人ほどのサークリング（回転木馬に似た設備）が設置された遊園地、旅館、温泉の他、平成17年まで甲陽園の地にあった高級料亭「播半」やミシュランガイドで三ツ星を獲得した日本料理「子孫」など、当時の甲陽園は大いににぎわいを見せたようです。100年経った今の甲陽園の姿からはちょっと想像がつかないですね。探せば過去の面影も見つかるかも！?



当時の開発によって出来た阪急甲陽園駅周辺の様子



市政報告No.4 2016年7月 無所属 保守系 会派・ぜんしん 街の声を大切にする身近な政治家を目指して **はまぐち仁士** 西宮市議会議員 ひとし

苦楽園で生まれ育った2児の父親。皆さんの目線で街の声を市政に届けます。



<プロフィール>1972年6月西宮生まれ。既婚2児の父。市立大社幼稚園、市立苦楽園小学校、市立苦楽園中学校、兵庫県立西宮甲山高等学校卒業。神戸ベイシェラトンのオープニングスタッフ等を経て1998年に松原町にて「Cafe&Bar savro(三郎)」、2000年に西宮浜にて「Trattoria & Cafe COMODO」をオープン。2014年西宮市長選挙でスタッフとして活動後、政治家私設秘書に就任。2014年9月末で秘書業務とすべての店舗を撤退して政治活動を開始。2015年4月に行われた西宮市議会議員選挙にて1983名からのご信託を頂き初当選。

TEL:090-8167-8136 Mail:h.hamaguchi0602@gmail.com **はまぐち仁士** 検索
http://goo.gl/pEHp1 http://h-hamaguchi.sakura.ne.jp/wordpress/

★はまぐち仁士とお話しませんか？カフェミーティングのお知らせ★

カフェミーティングは地域の声をお聞きするのが目的です。今回は「**保育士の資格を持つお母さん**」を対象に、仕事の復帰や保育士の仕事軽減についてお話をしたいと思っています。お手数ではありますが、**参加をご希望の方はMailにてお申し込み**をお願いします！

◆第4回：8月18日（木） 時間：午前10時から12時まで 場所：夙川トリニティ（西宮市相生町6-1 2-3F）*お子様と一緒での参加でも構いません。参加費は無料です。（但しお飲物は各自でご注文願います。）*12時以降はランチを頂きながらの雑談も自由参加にて行います！お気軽にご参加ください！*お申し込みはこちらから→h.hamaguchi0602@gmail.comまたは**はまぐち仁士公式HPのお問い合わせフォーム**よりお願いします。

★一緒に公園を綺麗にしませんか？定期清掃活動のお知らせ★

公園清掃を一緒にしませんか？下記の日程で公園清掃を行います。清掃を行いながら公園のあり方などをお話したいと考えています。今回は**新たに硬くなった砂場を掘り起こして柔らかくする作業**も行います！ご参加いただける方は暑いので帽子や飲み物などを必ずご持参下さい！

◆8月20日（土）松谷公園（ごみ拾いは午前10時から30分程度、砂場作業はごみ拾い終了から1時間程度を予定しています。・雨天中止）



【表紙デザイン】<タイトル>Yacht harbor <制作>荒木裕和

グラフィックデザイナー。主な仕事内容は商業デザイン、ホームページ作成。複雑・難しい内容を簡単・シンプルに表現することにデザインの面白さを感じています。イラストを描くのが好きで2004、2005年テニスの日ポスター優秀賞受賞。2006年大阪市営交通局100周年記念事業ラッピングバス「キャンBUS」デザイン公募において採用。
*表紙デザインは西宮市の文化振興を目的に、西宮ゆかりのアーティストが絵を描いています。

4年生以上の学童保育への対応が後退する恐れがあります！

西宮市は住宅開発抑制に関する指導要綱に沿って夙川小学校学区を「監視地区」から「準受入困難地区」に変更し、住宅開発の抑制を強化することを検討しています。これは今後、夙川小学校学区の就学前児童が増加しても、児童の受入が困難とならないように行った対応です。

【夙川小学校の今後の児童数及び学級数の推移】

	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
児童数	816	860	903	929	966	1003	1052
学級数	25	27	28	28	29	30	32

*上段が児童数、下段が学級数。(特別支援学級児童数及び学級数は含まれていない)
*高塚町など市へ申請を受けている住宅開発によって増加を見込む児童数は反映済み。

【過去10年間の特別支援学級数の推移】

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
市内全校総数	81	90	90	96	96	98	94	99	100	106

*過去10年間で25学級増加している。 **25増**

教育委員会は今後も児童数の推移を把握し、仮設校舎など様々な対応を検討するとしています。しかし上記の推計には今後新たなマンション等開発によって増える児童数や特別支援学級数の増加は反映されていません。また推計通りに児童数が増えるだけでなく、推計を超えた児童数増加の可能性もあります。私は今後対処しなければならない多くの問題の中で、特に重要なのが**教室不足の問題**と**学童保育の問題**、この2つであると考えます。

35人程度の学級編制によって学級数を増やさずに対応が可能です。

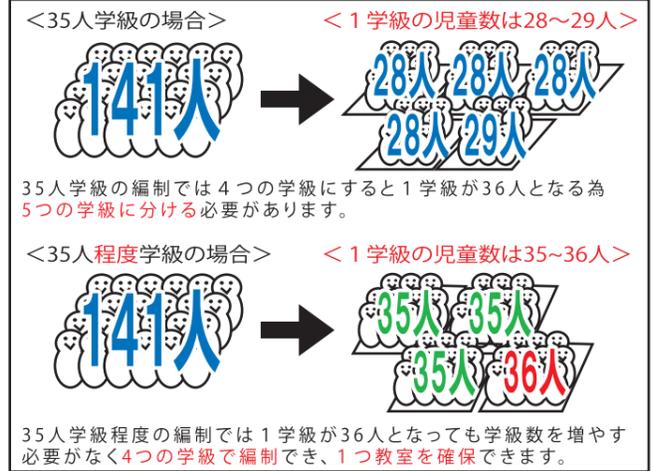
1つ目の小学校の教室不足について、対応の1つに**35人程度**の学級編制とする方法があります。

公立小学校の小学1年生は国の法律によって35人学級が義務化されています。また2～4年生についても、兵庫県が実施する*①「新学習システム」によって35人学級を実施しています。つまり西宮市の公立小学校は5・6年を除いた学年で35人学級を実施していることとなります。児童数が36人の場合、たとえ1名であっても学級数を増やして対応しなければなりません。

こうした課題を解決する為、35人程度で学級を編制する方法があります。(以下35人程度学級)小学2年生に進級する児童数が36人である場合、現在の編制では児童の数が35人を超えれば学級数を2つに合わせる必要があります。35人程度学級であれば、教室

不足などの状況に応じて学級数を増やさずに対応できます。地区指定による抑制には限界があることから、こうした対応によって**新たに受入れが可能な教室を増やすことも重要**です。

小学2年生に進級する児童1学級における児童数の編制例



小学4年生以上の学童保育の受入れに大きな影響を及ぼす恐れがあります！

2つ目は学童保育の問題です。働く保護者のみなさまにとって、学童保育は重要な施策です。昨年度に夙川小学校は60名の定員を超える申し込みがあったため、定数を超えた児童を受入れました。さらに今年度は最大受入れ人数の71名を超えて待機児童が発生する事態となり、夙川小学校の西校舎4階にある相談室を暫定的に第2育成センターとして運営することで待機児童を解消しています。

また市内の学童保育では**小学4年生以上の受入れが一部の学校でしか実施されていない**という問題もあります。市は児童受入れに必要な学校敷地内での施設整備を検討中ですが、**小学4年生以上の受入れだけでなく、待機児童の解消に必要な施設整備も困難な状況**です。今後は**学校の教室も学童保育の受入れ場所として積極的に活用すべき**です。

児童数が増加する夙川小学校は、**教室が不足するだけでなく学童保育を利用する児童数も増加する可能性が高くなります**。こうした問題を解決するためには学校の空き教室の活用が重要であり、**余裕を持たせた教室利用のあり方を検討すべき**です。学校の児童受入れ問題や学童保育、学習環境について、今後もしっかりと取り組んで参ります。

*①「新学習システム」兵庫県が実施している事業で、児童生徒の成長発達段階や教科等特性に応じて、柔軟に少人数学習集団の編制等を行う。この制度によって本来は1学級40名までとされている児童数を35人以内に編制が可能となる。但し法律で定められたものではないため、県下の市町村の判断によって実施されている。

入園希望者が少ない場合、越木岩幼稚園がなくなってしまう。

西宮市立幼稚園の休級及び休園等に関する規程は、4歳児学級の入園内定者が3年連続して30人未満となった場合、4歳児学級を休級するとしています。さらに翌年に続けて30人未満となった場合は休園となり、これは実質的には当該幼稚園がなくなることを意味します。

越木岩幼稚園は今年10月の園児募集で園児が30名を満たない場合、入園希望者が3年連続して30人未満となるため休園となります。**越木岩幼稚園存続の為に今年の園児募集が30人を越える必要がある**ことをお知らせ致します。



駐輪場の施設を増やす前にやるべき対策があるはず！

阪急夙川駅・甲陽園駅・苦楽園口駅及びJRさくら夙川駅近辺に整備された駐輪場について、地域の方から施設が足りていないのではないかとのお声を聞いています。

自転車関連事業は赤字運営となっており赤字にならない為の対策が重要です。

自転車の駐輪に関連する平成26年度の決算額は、自転車駐車場使用料など歳入が539,695千円に対して、駐輪場管理運営に係る指定管理料や撤去・マナー指導委託料など歳出が553,492千円となっており、**約1,380万円の赤字運営**です。

【各施設における自転車駐輪場の稼働率】

各駐輪場における自転車の配置定数と実数及び稼働率						
阪急夙川						
駐輪場名	東側第1駐輪場	東側第2駐輪場	西側第1駐輪場	南側第1駐輪場	南側第2駐輪場	南側第3駐輪場
駐輪定数	218台	48台	609台	192台	642台	137台
実数(定期)	190台	48台	390台	186台	501台	35台
実数(一時)	0台	0台	92台	0台	110台	19台
稼働率	82.7%	100%	79.1%	96.9%	95.2%	39.4%
JRさくら夙川						
駐輪場名	甲陽園駐輪場	第1駐輪場	第2駐輪場	北西駐輪場	南東駐輪場	南西駐輪場
駐輪定数	139台	220台	204台	150台	411台	286台
実数(定期)	120台	163台	157台	155台	353台	175台
実数(一時)	10台	58台	40台	0台	0台	202台
稼働率	93.5%	100.5%	96.6%	103.3%	85.9%	131.3%

*参照したデータは平成28年度3月10日における数値(1日の状況)

各施設の稼働率を見ると、場所によって稼働率に開きがあることがわかります。

こうした稼働率の低い施設に対して利用状況がリアルタイムにわかるように整備を行い、阪急夙川駅の南第3駐輪場のような稼働率の低い施設に

案内することや、**利用料金等の改定等**を行うことによって、**自転車が放置されにくい環境**になる期待が持てます。こうした取り組みによって、**自転車関連事業を黒字化**することが重要です。

施設を増やす前に、まずは必要な対策に取り組むべきです。

バスの利便性向上によって自転車利用者を減らすことも可能です。

市内を走る民間バスとの連携によって解決を図ることも有効だと考えます。バスは駅と市街地を結ぶ交通機関であり、自転車を利用する方と目的は一致します。市内バスの1ヶ月の定期代は通勤で9,240円、通学では7,920円ですが、自転車駐輪場の1ヶ月の定期代は2,000円前後と安くなっています。**駐輪場の料金とバスの定期代の格差を是正する取り組み等によって一定の自転車利用者がバス利用へと移行されれば、駐輪場施設を増やさなくても自転車駐輪場の稼働率を減少し、駐輪定数に余裕を持たせられる可能性**があります。バスの運行ルートや便数、時間帯などの調整に有効な情報をオープン・データ化して民間のバス会社に提供し、**自転車で通勤・通学を行う方にも利便性の高いバス環境を整備することが重要**です。

南北への交通手段に課題の多い西宮市にとって、市内を走る民間バスは通勤や通学だけでなく高齢者の方々にとっても重要な交通手段です。今後も駅周辺の駐輪場問題について、市内バスの利便性向上も合わせて取り組んで参ります。